

平成 26 年度日本生理学会第 2 回理事会議事録

日 時：平成 26 年 11 月 2 日（日） 13:00～17:00

場 所：東京慈恵会医科大学 高木会館

【出席者】

理事長 栗原 敏（議長）

理 事 赤羽悟美、明間立雄、石川義弘、井上隆司、井本敬二、老木成稔、尾野恭一、加藤総夫、
椛 秀人、亀山正樹、久野みゆき、久場博司、久保義弘、鯉淵典之、小西真人、篠田陽、
白尾智明、多久和典子、竹森 重、當瀬規嗣、富永真琴、鍋倉淳一、船橋利也、船橋 誠、
前田正信、松井秀樹、三木健寿、南沢 享、持田澄子、柚崎通介（計 30 名）

監 事 高松 研

陪席者：伊佐正、岡村康司、河西春郎、倉智嘉久、関野祐子、中島 昭、福田敦夫、藤山理恵、
古谷和春、八尾 寛、和田 真

【欠席者】

理 事：入來篤史、大森治紀、岡野栄之、小川園子、澁木克栄、徳田雅明、藤井 聡、
蒔田直昌（計 8 名）

監 事：川上順子

定数 39 名に対し、31 名の理事が出席し、定款により、本理事会は適法に成立した。

報告及び協議事項

1. 理事長挨拶

定刻となり開催する旨宣言された。曇天の中お集まりいただいたことへの御礼と、議事進行へのご協力をお願いされた。

2. 庶務報告（栗原理事長）

退会を若干上回る入会があったこと、また会員数が漸次増加傾向にあることが報告された。
ご逝去により名誉会員が減少したため、理事長副理事長会議で新たに募りたいという意見が出た
ことが報告された。

3. 財務報告（石川副理事長）

平成 26 年度決算について改善傾向であることが報告された。
会費納入率が上がったこと、科研費補助が得られたこと、またエデュケーター制度も始まり増収
となったこと、事務所完全移転に伴い経費が抑えられた旨報告された。
平成 27 年度予算(案)は、特に質問等なく、承認された。

4. 編集・広報委員会報告（多久和委員長）

- 1) 日本生理学雑誌刊行にかかる経費節減として季刊化の時期を早め、平成 27 年度開始としたい
意向が報告された。
- 2) 学会ホームページの更新については、理事会前に予め配信された URL より各理事や各委員
会委員長による確認の最中である。確認を終え次第公開予定としている。
英語版の完成はやや遅れる見通しであることが報告された。
- 3) 日本生理学会大会に関するアーカイブのページを日本生理学会のホームページに設け、閲覧
できるようにしたい。大会ホームページを日本生理学会のホームページにストックできるよ
う、協力を各大会にお願いしたい。
- 1) については、大会運営側としては広告媒体として重宝していること、また、財務状況が改善

したために季刊化を急ぐ必要がないことが意見として出された。

大会開催の案内については、時期を合わせることで対応が可能であり、FAOPS2019 開催時の費用を考慮すると季刊化を視野に入れて発行する必要がある。

理事会としては、平成 27 年度はこれまで通り年 6 回発行とし、様子を確認しながら 28 年度以降の季刊化を検討することとした。

3)については、日本生理学会のホームページで公開する場合は予算削減にもつながり得るので、これからホームページを開催する大会事務局に検討してもらうこととした。

5. JPS 編集委員会報告（石川委員長）

- ・IF が 1.248 となり、この数値はここ数年では最高であることが報告された。これは各理事の協力によるものであるため、委員長より謝意が伝えられた。
- ・JPS 総説執筆・アンケート実施への協力をお願いしたい。
- ・日本生理学会各賞の受賞者による JPS 総説の執筆を義務化したい。については賞選考委員会等当該委員会の検討事項としてもらいたい。

JPS 編集委員会からミニレビューフォーマットをシュプリンガー・ジャパン株式会社に作成依頼し、完成したフォーマットを当該委員会委員長に送付し、執筆義務化の検討を依頼することとした。

6. 会員委員会報告（亀山委員長）

会員の増加については引き続き課題とする。

臨時会員制度の新設については、改正案が承認された。平成 27 年 3 月に開催される社員総会に諮り承認を得ることとする。社員総会にて承認された場合、本制度は第 93 回大会から実施される。なお地方会については本臨時会員制度を採用するか否かは、各地方会の運営に委ねることとする。

7. 選挙管理委員会報告（明間委員長）

以下について報告、説明があった。

- 1) 次期理事長候補者選挙は平成 27 年 1 月実施予定とする。
- 2) 平成 25 年 12 月に実施した地区別理事選挙で、海外在住評議員は被選挙権および選挙権が行使できなかった。対策として「日本生理学会地区別理事定数に関する附則」の改定を提案したところ、異論が無く承認された。また 8 地区の詳細も明記する。

2) については平成 27 年度社員総会に諮ることとする。

8. 教育委員会報告（鯉淵委員長）

以下について報告があった。

- 1) 第 91 回日本生理学会大会(鹿児島大会)時に開催した教育プログラムについてアンケートを実施したところ、回答者の 97%以上が日本生理学会会員であった。プログラム内容はプラス評価が多かった。
- 2) 生物科学学会連合から高校の教科書を検討依頼があったため、教育委員会の意見をまとめたうえで生物科学学会連合に提出した。
- 3) 第 92 回日本生理学会大会(神戸大会)での教育プログラム内容が決定した。モデル講義の学生席については兵庫医科大学の越久 仁敬先生に依頼する。
- 4) 生理学 MCQ 問題集およびクリアブックについては、現在改定作業を続けている。
- 5) カエル捕り名人の大内一夫氏へ永年の生理学教育への貢献に対して感謝状授与およびプレスリリース配信を提案する。
- 6) FAOPS2019 時にはサテライトで教育ワークショップを 3 月 27 日、28 日で実施予定としている。開催会場第一候補はニチイ学館宿舎。

5) について、理事会で感謝状授与を承認した。感謝状の文案については教育委員会委員長が作成するものとし、授与式は大内氏の都合がつけば、平成 27 年度社員総会に招待して行うことを検討する。

9. 生理学エドゥケーター認定制度委員会（中島委員長）

- 1) 教育プログラムへの出席をバーコード管理した結果、データ管理の簡素化を実現した。今後は当該のバーコードは会員ページから各自出力が可能となるため、次年度以降の経費削減を実現することとなった。
- 2) 平成 26 年 7 月 1 日より同年 7 月 31 日までの期間に於いて、生理学エドゥケーター認定制度の出願を受付けたところ 253 名より出願があった。うち経過措置 222 名、ポイント加算 30 名、申請辞退 1 名である。
審査および再審査を実施した結果、出願申請可が 251 名、申請不可が 1 名となった。

2) について以下の事項を理事会として承認した。

- ・生理学エドゥケーター認定制度委員会にて出願申請可と判断した者のうち、登録手続きを完了した者に対して「生理学エドゥケーター」として認定する。
- ・「生理学エドゥケーター」認定者の氏名および所属を、本人了承のうえ日本生理学会のホームページおよび日本生理学雑誌に掲載する。

また渡邊マキノ氏を生理学エドゥケーター認定制度委員会の新委員とすることを、理事会で承認した。

10. 学術・研究委員会（加藤委員長）

- 1) 各機関との相互の連携強化を図るため、「職責委員」を委員会に配置することとした。職責委員の任期は各機関での任命の期間内とし、各機関で人員交代がある場合は自動的に学術・研究委員会においても交代するものとする。
職責委員は通常委員の数および他委員会との重複調整の適用外とする。
職責委員を選出する各機関名は次のとおり。ただし、日本学術振興会学術システム、文部科学省研究振興局学術調査官、日本学術会議の 3 機関は日本生理学会からの選出が必須ではないため、会員が在籍している期間に限り職責委員を送る。
なお日本脳科学関連学会連合、日本医学会連合の 2 機関は日本生理学会が分科会のため、代表を職責委員とする。
これらの機関へ意見があれば、学術・研究委員会が窓口となるので、問い合わせて欲しい。

職責委員について

会員が在籍している期間に限り職責委員を送る機関
日本学術振興会学術システム
文部科学省研究振興局学術調査官
日本学術会議
代表を職責委員とする機関
日本脳科学関連学会連合
日本医学会連合

- 2) 平成 27 年 3 月に開催される合同大会にて、日本解剖学会学術委員会との共同企画として、パネル・シンポジウムを企画立案した。大会の組織委員会からは開催検討との回答を得た。

11. 他学会連携委員会（赤羽委員長）

- 1) 第 92 回神戸大会で、他学会と連携した 8 シンポジウムを開催することを報告した。
日本解剖学会との合同大会のため、他学会との連携は日本薬理学会に限定されることとなった。他の 7 件については公募シンポジウムに応募する等、例年とは違う形式で開催すること

となった。

- 2) 他学会共催シンポジウムについては、2 件予定している。他に実現できていない企画も存在する。
- 3) 他学会と連携シンポジウムを開催する際には、当該学会と覚書を交わすこととする。覚書には理事長捺印のうえ、連携学会もしくは大会に対して発行することとし、書類は事務局が管理する。
- 4) 第 92 回神戸大会での反省を生かし、第 93 回札幌大会以降は大会プログラム委員会および学術・研究委員会と協議し、シンポジウムの内容、件数および募集期間を設定する必要がある。

12. 研究倫理委員会報告（桃委員長）

- 1) 第 92 回神戸大会の教育講演には、研究倫理委員会から前委員長を推薦した。また研究倫理シンポジウムを、日本解剖学会倫理委員会と合同で企画した。
- 2) 文部科学省は新たな「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」を平成 27 年 4 月から適用する。研究活動における不正行為に対して、大学等の所属研究機関の管理責任を明確化することで、抑止力を強める効果が望める。
- 3) 平成 29 年に予定される、動物の愛護及び管理に関する法律改正実施までに、会員・一般市民へ動物実験に対する一層の理解を深める活動の継続が課題となる。

13. 利益相反委員会報告（桃委員長）

- 1) 日本医学会(現日本医学会連合)が平成 25 年 4 月に COI マネージメントガイドラインの改定版を公表した。改定の骨子は、既に日本生理学会の利益相反基本指針および運用指針に盛り込まれている。そのため新たな改定はない。
- 2) 日本医学会から利益相反対応に関するアンケートの依頼があった。これに対し、JPS 編集委員会委員長と分担して回答した。

14. 国際交流委員会報告（久保委員長）

第 92 回生理学会大会・第 120 回解剖学会総会・合同大会では、解剖学会の担当者と相談のうえ、国際交流関連シンポジウムの企画を 3 件提案し、採択された。各々 FAOPS 組織委員会委員長の要請により「Towards FAOPS2019(FAOPS2019 に向けて)」と副題につけることとした。

- 1) 日中合同シンポジウム
第 91 回大会から KOJACH シンポジウムは解消し、日韓合同シンポジウム(KPS-PSJ シンポジウム)と日中合同シンポジウム(CAPS-PSJ シンポジウム)に分けて実施している。
日本解剖学会、当学会共に各学会で国内から 1 名、中国から 1 名選出し、計 4 名の講演者で構成する。
当学会からは招待講演者 1 名、国内では丸山芳夫先生を選出し依頼したところ、承諾を得た。
- 2) 日韓合同シンポジウム
日中合同シンポジウムと同様に、各学会で国内から 1 名、韓国から 1 名招待講演者を選出し、計 4 名で構成する。
当学会からは招待講演者 1 名、国内では持田澄子先生を選出し依頼したところ、承諾を得た。
- 3) 日独合同シンポジウム
日本とドイツの交流を目的として、日本解剖学会大会長が提案し採択されたシンポジウム。
当学会からは国内生理学者 1 名、日本解剖学会からは 2 名(海外招待講演者 1 名、国内 1 名)の計 3 名の講演者で構成する。
- 4) 中国生理大会 (CAPS) 大会 (2014 年 10 月 24 日~27 日) から丸中良典先生に、招待講演の依頼が届いた。丸中先生は CAPS-PSJ の今後の発展を鑑み、快諾し講演した。
- 5) タイで開催される FAOPS Congress2015 に、当学会から提案したシンポジウム 2 件が正式に採択された。
- 6) 2014 年 11 月 30 日から 12 月 3 日にかけて開催されるオーストラリア生理学会大会

(AuPS2014)にシンポジウムを当学会より提案し、採択された。

- 7) スカンジナビア生理学会大会 (SPS2014) が開催された。当学会からは加藤総夫先生、久保義弘先生が出席し、依頼を受けて提案したシンポジウムを実施した。
- 8) 韓国生理学会は 2 年に 1 度大会を開催しており、平成 27 年は開催年となる。シンポジウム提案等の依頼があれば、応えたい。

当学会からの旅費等支援については、規程に沿って実施できるよう今後の検討課題としたい、との理事長から発言があった。

15. 集会委員会 (富永委員長)

- 1) 当事者の同意を得て、計 5 名の委員の変更があった。
- 2) 第 94 回大会長として浜松医科大学浦野哲盟先生、同福田敦夫先生を、候補者として理事長に上申した。
- 3) 第 96 回大会長については、平成 27 年度第 1 回理事会で提案できるよう委員会間で検討する。

第 94 回大会長として、浜松医科大学浦野哲盟先生、同福田敦夫先生が本理事会にて承認された。特別委員として浦野哲盟先生に集会委員会に参加いただくこととする。

16. 将来計画委員会報告 (白尾委員長)

8 月 21 日、22 日に開催された委員会で、以下の案件が理事会に提案された。

- 1) FAOPS2019 開催に向けて広報活動をおこなう必要があり、そのためにホームページの充実が望まれる。
FAOPS2019 と日本生理学会との位置づけを明確にすることを望む。FAOPS2019 組織委員会による位置づけが明示され次第、関連委員会に平成 29 年度大会の方向付けを求める。
- 2) 男女共同参画推進委員会は評議員の女性比率引き上げ(20%)を目標として掲げているが、具体的な活動の提示を希望する。
- 3) ホームページ内にて、1. 各委員会委員長の名簿更新、2. IUPS2009 へのリンクを FAOPS へ付け替え、3. Annual meeting2012 を更新、の計 3 件を編集広報委員会へ提案する。
「生理学を知る」は更新しない。
- 4) 他学会もポストク問題の深刻さに直面しているか、アンケート等で確認することを若手の会運営委員会に求める。
- 5) アウトリーチ活動登録を、積極的に呼びかけることを提案する。

- 1) に対し、次のように回答があった。

・現状のホームページ、新ホームページ共に FAOPS のページをリンクしていることが、多久和編集広報委員会委員長より回答があった。また、鍋倉 FAOPS2019 組織委員会委員長に FAOPS 紹介記事作成依頼を既におこなっていることも併せて報告された。

・FAOPS2019 開催に向けて既に業者選定が済み、平成 27 年 4 月 1 日から契約を交わす。契約にはホームページ作成も含まれる。完成したホームページは、日本生理学会のサーバーに置く予定であることを FAOPS2019 組織委員会委員から回答があった。

・FAOPS2019 は日本生理学会が主体で開催されると考えており、大会の方向性に沿いたい旨、鍋倉 FAOPS2019 組織委員会委員長より回答があった。

- 2) に対し、次のように回答があった。

会員歴 3 年以上の一般会員(女性)の名簿作成については、事務局へ負担がかかることであり、実現には課題が残ると関野男女共同参画推進委員会委員長から回答があった。5 名の候補者を擁立候補としていることが、併せて報告された。

多久和編集広報委員会委員長より一斉メールでの呼びかけのほか、日本生理学雑誌掲載の提案があり、関野男女共同参画推進委員会委員長が原稿作成を検討することとなった。

- 3) について次のように多久和編集広報委員会委員長より回答があった。

英語版の更新については、サーバー管理担当者と連絡が取れない等の理由により困難な状態である。新ホームページに移行後、更新予定である。

関連して、将来計画委員会担当ページ「生理学を知る」は更新が難しいと編集広報委員会で判断し、ひろく社会や高校生、中学生の興味・関心に応えるページとして「へえすごい からだのしくみ Q and A」を編集広報委員会で設けることとする。当該のページは日本生理学会が日本の **Human Physiology** に貢献することを目指す。公開は平成 27 年 3 月末を予定している。専門分野について作成協力を依頼する場合がある。

4) について次のように和田若手の会運営委員会委員長より回答があった。

サマースクールの主催者が日本生理学会となっているが、現状は若手の会運営委員会有志が開催している。表記内容について、若手の会運営委員会内で検討する。

5) について前田アウトリーチ・タスクフォース座長より回答があった。

将来計画委員会、教育委員会共に、委員全員の登録が完了していない現状を指摘し、まずは理事の登録が望ましい。

現状では登録が無い地域があり、派遣に際して課題が残る。

一斉メールや日本生理学雑誌への掲載により、会員へ登録を呼びかけることとする。

17. 男女共同参画推進委員会報告（関野委員長）

1) 委員の交代、副委員長の選出をおこなった。

2) 第 91 回鹿児島大会時の保育園利用者数述べ 21 名を学協会連絡会に回答した。

3) 男女共同参画学協会連絡会第 3 回大規模アンケート調査を生理学会でデータ解析し、女性生理学者の会ニュースレターへ寄稿した。

4) 男女共同参画学協会連絡会・要望書作成ワーキンググループに参加し、1. 女性リーダー育成の推進、2. 研究者のワーク・ライフ・バランス基盤の定着、3. 女性研究者・教員割合の数値目標設定の促進とデータベース化、4. 次世代を担う女性研究者の育成、5. 国際ネットワーク形成の推進支援、を平成 27 年度の概算要求に組み込むことを要望した。要望書は内閣府男女共同参画局局長等に提出した。

5) 第 92 回神戸大会にてアンケート調査結果をパネル 1 枚程度で掲示したい。

岡村第 92 回大会長が掲示を検討することとなった。

5) 科学技術系専門職の男女共同参画実態調査回答個票の利用ガイドライン(案)について理事会に諮り、承認された。理事会からは、個人情報の洩れが無いよう細心の注意を取るよう促した。

18. 賞選考委員会報告（松井委員長）

1) 平成 26 年度上原記念生命科学財団上原賞、第 55 回(平成 26 年度)東レ科学技術研究助成に各 1 名推薦した。

2) 日本生理学会奨励賞へは 4 名応募があり、現在賞選考委員会で選考中。

3) 受賞者へミニレビューを依頼する件については、実現したい。

日本生理学会奨励賞の応募者を増やすという観点から、年齢制限を 39 歳から 42 歳に引き上げるよう提案があり、賞選考委員会で次回理事会までに検討することとなった。

19. 入澤若手賞選考委員会（尾野委員長）

平成 26 年度入澤記念若手賞には 12 名の応募があった。現在選考中であり、11 月半ばに受賞候補者を決定する予定。

前理事会にて積極的に選考するよう意見があり、それを受け今回の選考では、1. 選考委員会に周知、2. 選考方法を予め議論したうえで選考に入っていることが報告された。

20. 入澤賞運営委員会（持田委員長）

入澤記念若手賞、入澤彩賞ともに 12 件の応募があったことが報告された。

21. 生理学女性研究者の会運営委員会報告（藤山委員長）

- 1) 第5回入澤彩賞は、応募対象は基準日に40歳から49歳で、かつ3年以上の正会員歴を有する女性生理学会会員とした。
12名の応募があり、現在選考中であることが報告された。
- 2) 入澤彩氏に関する情報を、日本生理学会のホームページにある入澤彩賞のページから辿れるよう提案する。

2) の提案に対し、多久和編集広報委員会委員長より「NEWSLETTER 第28号」等についてリンクを張るとする回答があった。

22. 若手の会運営委員会（和田委員長）

- 1) 第91回鹿児島大会ではプレゼンテーションに関するシンポジウムを実施し、盛会となったことが報告された。
第92回神戸大会については松田先生と共同でシンポジウムを計画している。
- 2) 若手研究者フォーラム(7月26日)を実施し、かつ生理学若手サマースクール(8月2-3日)の開催に協力した。その際に第92回神戸大会の案内等生理学会の広報・普及に努めたことを報告した。
- 3) サマースクールは現状では、神経系に偏向しがちであることが課題であり、今後対象分野を広げていく予定とする。
- 4) アウトリーチ活動の一環として平成27年度もサイエンスカフェを実施予定とする。
- 5) 若手の会の情報発信について、若手の会が管理しているホームページ内容を更新する余地があると認識し、具体的な方法については今後の検討課題とする。

23. 義援金配分委員会（八尾委員長）

- 1) 東日本大震災被災三県に所属する会員に1. 第91回鹿児島大会参加費返還、2. 第92回神戸大会参加費返還、3. 第46回東北生理談話会・学生参加費半額返還、を周知した。
周知を広く実施できたことにより、東北日本生理科学奨励賞10名、東北日本生理科学有志賞5名の応募があった。
- 2) 学部学生年会費の半額補助を実施してきたが、今後は実施せず、奨励賞等受賞者への副賞を充実させたい。

24. フィジオーム・システムバイオロジー推進特別委員会（倉智委員長代理：古谷氏）

- 1) 第91回鹿児島大会でシンポジウムを開催し、生理学に軸足を置いたフィジオーム・システムバイオロジー研究に関する異分野連携に関して現状と課題、今後の展望に関して議論を行った。
- 2) 海外ではフィジオーム・システムズバイオロジー分野の学術雑誌が創刊される等、分野としての盛り上がりが見られているが、日本国内に於いての現状を鑑みると学術との繋がりに課題がある。

25. 次期理事長候補推薦委員会（福田委員長）

- 1) 5月31日に第1回委員会を開催し、公告文を作成することとした。
公告文は9月1日に会員に向けて一斉配信し、また日本生理学雑誌64巻5号(9月発行)に掲載した。
- 2) 一次候補者の推薦が11月2日時点では規程に満たないため、締切を11月22日まで延長することとした。
- 3) 11月29日に第2回委員会を開催し、第二次候補者を3名決定する予定。その後の予定としては、平成27年1月に選挙公示実施を目指す。
- 4) 第二次候補者には1. 被推薦者の略歴、2. 主要業績目録、3. 研究・教育活動概要、4. 学会運営抱負の提出を依頼することとする。

26. 日本学術会議（河西連携委員）

- 1) 日本学術会議は平成 26 年 10 月に第 22 期を終え、同 11 月から第 23 期となった。現在第 22 期の報告を作成しており、完成後は日本学術会議のホームページに公開予定である。
- 2) 第 22 期に会員の協力により作成したマスタープランと活動報告を、新ホームページにも掲載することを希望する。

2) については新ホームページでも公開するよう、多久和編集広報委員会より回答があった。公開前には内容について河西連携委員と調整する。

27. 日本医学会連合評議員会報告（加藤評議員）

- 1) 日本医学会の一般社団法人化により、一般社団法人日本医学会連合が平成 26 年 4 月に発足した。
日本医学会連合は各分科会の会費により運営することとなり、会費は各学会会員数により決定する。
平成 26 年度分会費として約 16 万円を支払った。
- 2) 第 29 回日本医学会総会(平成 27 年開催)の早期参加登録協力依頼が日本医学会連合より届いている旨、報告された。
- 3) 日本医学会連合から、当学会会員に向けて周知依頼が頻繁に届く。会員が確認できるよう、ホームページ内にバナー貼付等、コーナーを設けることを希望する。
- 4) 次回評議員選考までに選考に関する内規を定めることを希望する。

4) については、次回評議員選考までに内規策定を検討することとなった。

28. 日本医学会用語委員会報告（佐久間委員代理：柚崎前委員）

日本医学用語統一を当学会主導でおこなうため、用語ワーキンググループを立ち上げたことを報告した。

29. FAOPS 報告（岡田前会長代理：栗原議長）

FAOPS2019 開催予定情報を決定次第 FAOPS 理事会に報告し、諸外国に周知するよう提案があり、これについては FAOPS2019 組織委員会にて対応することとなった。

30. FAOPS2019 組織委員会報告（鍋倉委員長）

- 1) 平成 26 年 1 月に担当業者を選定のためヒアリングをおこない、日本コンベンションサービスに決定した。
- 2) FAOPS2019 は日本生理学会大会との合同開催であり、名古屋市開催を考えてきたが、運営面での利点から神戸国際会議場を会場とする。また日本神経科学学会の開催時期との調整から、平成 31 年(2019 年)3 月 28 日(木)－31 日(日)を開催日程とする。
- 3) FAOPS2015(バンコク大会)では広報活動としてブースを設置する。また各国対応委員を決め、国毎に FAOPS2019 の広報活動をおこなう。

2) の開催日程および会場については、審議のうえ承認された。

31. 生物科学学会連合報告（小西連絡委員）

- 1) 10 月 11 日の第 10 回定例会議で次期代表の選挙が行われ、中野明彦氏が選出された。(次期：平成 27 年度・28 年度)
- 2) 教科書問題検討委員会では中学・高校レベルの教科書を対象とし、用語、内容等の整合性向上を検討する。当学会からは澁谷委員が参加している。
- 3) ポスドク問題検討委員会には、当学会からは鯉淵典之氏、篠田陽氏が参加している。

32. 生物科学学会連合ポスドク問題検討委員会(篠田連絡委員)

- 1) 第一回生物科学学会連合ポスドク問題検討委員会が平成 26 年 3 月 27 日に開催された。ポスドク問題検討委員会設置の経緯の説明があり、また委員長の選出が行われた。
- 2) 第二回の委員会では「2014 年 10 月までに文部科学省に具体的な提案をすることを目標とする」と提案があったが、11 月 2 日現在進捗状況については確認が取れていない。
- 3) ポスドク問題は存在しないと文部科学省・人材政策推進室では認識している。この認識の根拠としている数値を覆すデータ提示が必要である。
- 4) 大会に企業ブースを無料で設置し、ジョブマッチング促進を後押ししたい。またランチョンセミナーを開催することも提案する。
- 5) 当学会から生物科学学会連合へ、「PI への教育の充実」、「外部資金で雇われた若手研究員の自由度の向上」、「各大学、研究所組織における技官職の創設」を提言したい。

3) について日本解剖学会と合同で実施したアンケートでは、ポスドク問題は存在すると結果が出ている。「ポスドク問題は存在しない」と認識されている根拠で示されている数値では、ポスドクを諦める等の背景が反映されていないことが指摘された。

当学会でも更にポスドク問題を調査する。

4) については、ブース設置は以前実施したことがあるが、良い結果が出たわけではないことが説明された。また、アカデミックリクルーター(企業)からも、集客が見込めないとの意見が出されている。ランチョンセミナーの実施については、第 93 回大会以降の各大会長に実施を検討してもらうこととなった。開催する際にはランチョンセミナーでの弁当代(約 10 万円)を PSJ から支出する。

生理学のポスドクを雇用対象とする企業については、検討する。

5) については、当学会がポスドク問題に関して生物科学学会連合と共通認識を持っていることを伝える。また講演実施や、進言先は文部科学省のみならず、大学も含める等の提案もまとめて伝える。

33. 日本脳科学関連学会連合報告(伊佐評議員)

- 1) 平成 26 年 6 月 13 日に第 3 回評議員会が開催され、当学会からは栗原理事長、加藤副理事長、伊佐評議員が出席した。
評議員会では第 2 期の役員選出、2014 年度予算案承認、規約改正等がおこなわれた。
- 2) 基礎系の学会として抱えている問題の解決に、日本脳科学関連学会連合を介して提言する等、日本脳科学関連学会連合を活用することを提案する。

34. 第 91 回日本生理学会大会報告(亀山大会長)

平成 26 年 3 月 16 日(日)~18 日(火)に鹿児島大学郡元キャンパスで開催された。

大会には 1525 名が参加し、会計については黒字で閉めたことを報告した。

会期中には、平成 23 年の横浜大会(誌面開催)で講演予定であった大森治紀先生、梶谷文彦先生にも講演いただいた。

35. 第 92 回日本生理学会大会準備状況報告(岡村大会長)

平成 27 年 3 月 21 日(土)~23 日(月)に神戸コンベンションセンターで開催される。

一般演題(ポスター)は日本解剖学会と合計で約 1,160 題となり、シンポジウムを含めると約 1,600 題となることが報告された。

- 1) 合同懇親会を開催するが、これは初めての試みであり、関係者に参加を呼び掛けて欲しい。
- 2) 大会終了後の経費余剰の案分については、事前参加登録者数の比率でおこなう。

36. 第 93 回日本生理学会大会準備状況報告(當瀬大会長)

平成 28 年 3 月 22 日(火)~24 日(木)に札幌コンベンションセンターで開催される。

2 か月の選考期間を経て、業務委託する業者を決定した。

37. その他

ICH についてプロセス等相談事があれば、関野祐子先生が相談を受け付ける。

議題

1. 平成 26 年度第 2 回理事会議事録について
修正点があれば、理事長にメールにて連絡する。
2. 定款の確認
学会運営の礎となるものであるので、改めて確認することを求める。
3. 理事長選挙規程の改定
 - 1) 地区別理事の任期
承認された
 - 2) 特別幹理事の選出に関する内規
承認された
4. 次期理事長選出規程
 - 1) 次期理事長、理事長、副理事長の任期
承認された
 - 2) 副理事長候補者が理事でない場合について
承認された
5. 第 94 回日本生理学会大会
浜松医科大学浦野哲盟先生、福田敦夫先生が大会長として承認した。
- 1 1. その他
定款第 10 条は「退社」と「退会」で整合性が取れないのではないか、との意見が出た。
これに対しては栗原理事長より担当弁護士に相談する。

以 上